

# 新しい正副議長が決まりました

## ～議長に塩田勉議員、副議長に奥山豊議員を選出～

6月定例会最終日（6月30日）の本会議で、石山米男議長の死去に伴う議長選挙が行われ、指名推選により塩田勉副議長を議長に選出しました。また、引き続き行われた副議長選挙では、投票の結果、奥山豊議員が副議長に当選しました。

### 就任のごあいさつ

## 「二灯照隅 万灯照市」を引き継いで



議長 塩田 勉

このたびの6月定例会で、議員各位からご選任いただき、故石山米男前議長を引き継いで、議長の重責を担うこととなりました。人生の大半を地方自治に捧げられた前議長の永年のご尽力に対し、心より感謝申しあげ、ご冥福をお祈りいたします。横手市では、少子高齢化や過疎化とともに、地域経済も停滞傾向にあります。加えて、今冬の雪害や東日本大震災の影響も大きく、厳しい社会情勢にあります。一方で、地方の時代といわれて久しいものの、実感が伴わない状況にあ

ります。市議会では新たな議会改革への第一歩を踏み出すべく、これまでの取り組みをさらに発展させ、市民とともに歩む議会を目指し、議会基本条例の制定に向けて協議を進めてまいります。議会と市民の皆さまとの距離を一層近づける努力をすべく、ともに、執行機関と議会が緊張感を保ち、互いに切磋琢磨し合う姿勢で、市民の皆さまの負託に応える議会の実現に向け、議員29名全員鋭意取り組んでまいります。これからの市議会に対しご指導とご鞭撻をお願い申しあげましてあいさついたします。

## 地域産業の振興を



副議長 奥山 豊

このたび、まちづくり一筋に尽くされた石山前議長が任期途中で亡くなられたことにより、正副議長選挙が行われ、同志の方々より力強いご推薦を受け、石山議長への追悼の想いの中で立候補を決意し、議員各位からご選任頂きました。身に余る光栄であります。さて、大きく変わり行く現代社会にあり、色々な面で転換期をむかえ、それにどう挑戦し、新しいものを創っていくかが問われています。今秋の秋田県種

苗交換会開催決定を受け、食と農のまちづくりを宣言している中で、農家の所得向上をどう支えていくのか農業振興には大きな期待がかかります。同時に平泉の世界文化遺産登録決定を受け、平泉と横手の連携を模索し、横手市の観光と産業の振興に努め、地域産業の活性化につなげることが重要であります。横手市発展のため、議会もしっかりと役割を果たしてまいります。今後とも更なるご支援、ご指導をお願い申し上げます。ごあいさついたします。

## 大震災前よりも強力な観光振興を

高橋 大



**問** 平成25年JRグループが秋田アステイネーションキャンペーン※（DC）を展開するが、市はどのような対応を考えているのか。

**答** JR東日本ではDCに先駆け、今年の10月～12月まで秋田県を重点販売地域に指定し宣伝活動が行われる。折りよく、改築された横手駅がオープンし、期間中には第134回秋田県種苗交換会が横手駅西地区を会場に開催される。観光客呼び込み、市全体が賑わい相乗効果が実感できるよう、また、震災後さびしい経営をしいられている観光関連施設、飲食店等の支援に繋がるよう配慮しながら、JR東日本、秋田県と連携してキャンペーンに取り組みたい。具体的には、DC期間中の土、日曜日や祝日に、角館駅から県南への周遊バスの運行を計画しており、仙北市、美郷町、湯沢市等と連携して、このエリアの名所をめぐる企画を検討している。なお、今年度の事業として、平成25年の本番に向け県南市町村との連携を強め観光素材の

磨き上げを図り、県南への誘客を推進するとともに、喫緊の課題である観光関連施設等への経済支援対策として、首都圏から、世界遺産に登録された岩手県平泉町を經由して横手市へ誘導するコースについて、モニターツアーなどの企画も検討している。

※アステイネーションキャンペーン JRと指定された自治体、地元観光事業者等が協働で実施する大型観光キャンペーンのこと。

**その他の質問**  
○市営住宅の運営について  
○企業誘致について  
○大停電対策について



完成を待つJR横手駅

## 「水は命の源」横手川の源流、水源地は大丈夫か。

奥山 豊



**問** 近年外国人企業、外国籍の個人に森や山が売られている現状の報道がある。日本の森林をどう守るのが重要な問題であり、当市の横手川の源流、水源地、その周辺の現状や管理はどうなされているのか。市民の命の源、水源地を守る条例は必要なのか。

**答** 横手川上流部の水源地は5つの系統、7カ所になっている。管理は水道課が水量確認と草刈りを行っている。水源周辺は国有公有林であり権利移動の心配はない。民有林の取引は事後報告が義務化され、事前規制の条例化は困難な状況である。また、当該地は県が定める雄物川地域森林計画区となっていることから、森林機能に著しい障害を与える伐採行為は制限される場所である。仮に権利移転があっても県と連携して現行の指導を行い水源地の保全に努める。**問** 合併特例債も平成28年まで、しかし東日本大震災により国の事情もあり財源に限りがある。次の世代によりよい環境をつくり価値のあるものを残したい。重要課題の着実



市民生活を支える横手川

**市長の政治姿勢について伺う。**

**答** 抱えている様々な課題や方向性について示唆に富む話であり、改めて相当な事態が待ち受けている思いをした。任期折返し点、2人の副市長体制で部局一体となって新しい感覚も入れながら問題解決に全力でまい進する。具体的な事例があった大雄地域の堆肥センターは良好に運営されていたものがそのような方向になっていない。地域に喜ばれる施設になるように副市長、部局と連携し取り組んでいく。

**その他の質問**  
○横手西部土地改良事業  
○学校統合事業  
○横手駅前再開発事業